

熊大通信

vol. 78
2020 AUTUMN

特集Ⅰ

学問の融合が生命現象の謎を解き明かす
生物学×化学

特集Ⅱ

それでも、できることはある。
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと
「主体的」に動いた熊大生



浅井東一(左) 拝聖院(熊本市北区)の立田山ヤエクチナシ(右)

立田山ヤエクチナシと浅井東一

1920(大正9)年に「立田山ヤエクチナシ」の名で識られている「ヒゴヤエクチナシ」が発見されて今年で100年を迎えた。発見者は、当時、五高に赴任して間もない教授浅井東一である。五高の背後に位置する立田山で採取され、植物学教室に持ち込まれたクチナシの枝の中に八重咲きの花を見つけたのが最初であった。その後1929(昭和4)年までかけた現地調査で立田山の山麓に9株の個体を確認し、「立田山ヤエクチナシ自生地」として国の天然記念物に指定された。

浅井東一は、東京帝国大学理科大学を1915(大正4)年に卒業し大学院を経て、1919(大正8)年9月第五高等学校教授となった。以来、五高が閉校し、熊本大学となった後の1952(昭和27)年9月に亡くなるまで植物学の教授を務め、辛辣で厳しい授業と休講をしないことで知られた。

一方、1937(昭和12)年から1951(昭和26)年まで山岳部の部長の任を負い、授業とは一転、温かな態度で、生徒たちを同じように山を愛する仲間として遇し、山の魅力に捕らわれた蘇友会(山岳部OBの会)の会員たちからも末永く慕われた。

文 藤本秀子(五高記念館)

※2020年3月末、保全活動を行っている樹木医 今村順次氏より立田山ヤエクチナシの発見100年を記念し、挿し木で育てられた10本が熊本大学理学部に寄贈された。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。



熊大生、拓く。
 がんばれ！熊大生、熊本、日本！
 —熊本大学応援団リーダー部

1966(昭和41)年に誕生し、2020年に創立54周年を迎えた熊本大学応援団。2005年からはチアリーダー部と共に活動している。熊本大学の体育会系サークル、新入生、同窓生などを応援しつつしてきた。その思いを胸に、熊大生、熊本、そして日本にエールを送る。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 学問の融合が生命現象の謎を解き明かす
生物学 × 化学
- 11 研究室探訪 がんを克服する人を一人でも増やすために
大学院生命科学研究所 消化器外科学
馬場 秀夫 教授
- 13 特集Ⅱ それでも、できることはある。
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと
「主体的」に動いた熊大生
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 地域と熊大
- 20 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授
 黒髪南キャンパス 工学部百周年記念館へつづく銀杏並木

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.78

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
 sos-koho@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

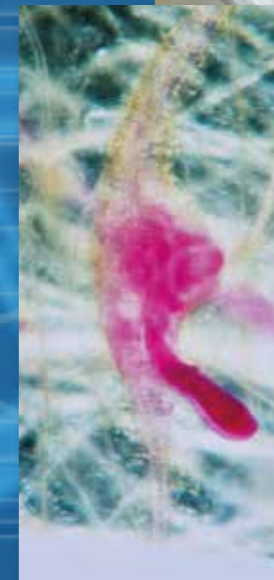
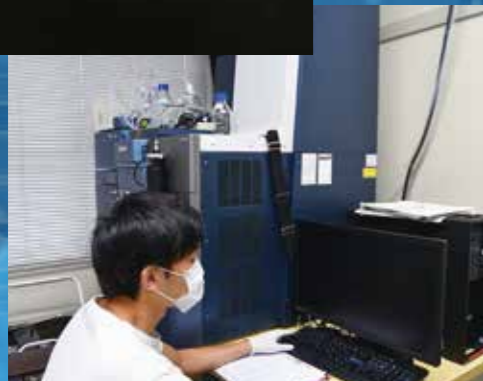
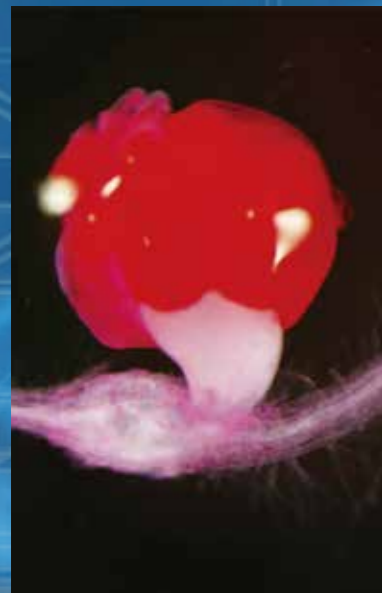
【編集】熊大通信編集委員会
 大日方信春 / 委員長 大学院人文社会科学研究所 (法学系)
 安村 明 / 大学院人文社会科学研究所 (文学系)
 松永 拓己 / 大学院教育学研究科
 松永詩乃美 / 大学院人文社会科学研究所 (法学系)
 一柳 錦平 / 大学院先端科学研究部 (理学系)
 尼崎 太樹 / 大学院先端科学研究部 (工学系)
 坂梨 京子 / 大学院生命科学研究所 (保健学系)
 首藤 剛 / 大学院生命科学研究所 (薬学系)
 井口 英樹 / 総務部総務課広報戦略室

【制作】株式会社 談

特集 I

学問の融合が生命現象の謎を解き明かす

生物学 × 化学



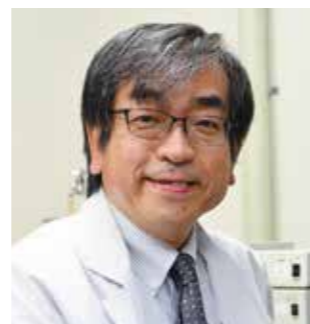
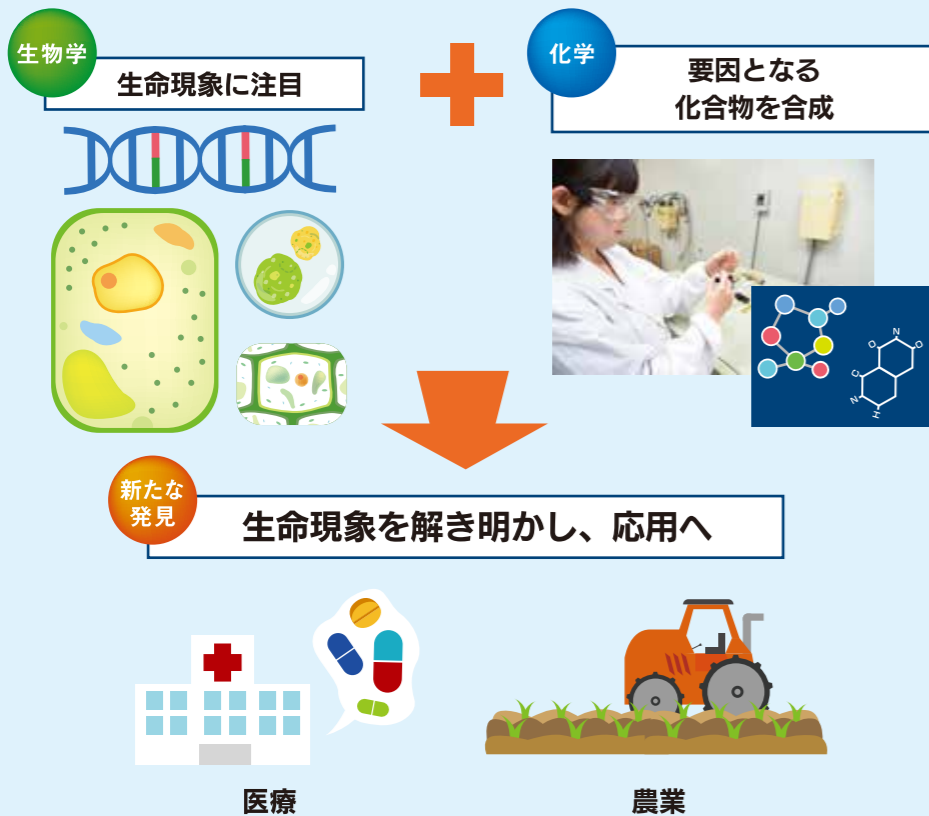
それぞれの「最先端」が出会う時、
新しい何かが生まれる

熊本大学には、様々な分野で世界最先端の研究を行う研究者が数多く在籍しています。

研究者が交流し、各分野の高度な知識や手法が融合する、学際領域での研究も盛んです。

今回は、生命現象の謎を解き明かし、さらには医療・農業での実用化にも大きな可能性をもたらす生物学と化学の学際領域の研究をご紹介します。

生物学と化学の融合がもたらす成果



大学院先端科学研究部長
理学部長

谷 時雄 教授
TANI Tokio

Profile
1980年九州大学理学部生物学科卒業。
1982年筑波大学医科学研究科修士課程修了。
製薬会社研究員、九州大学を経て、2001年に
熊本大学へ教授として赴任。2020年より現職。
専門はRNAの分子生物学。

**基礎研究と応用研究は
生命現象解明の両輪
異分野同士の融合は、その原動力に**

生物学と化学という垣根を取り払った研究について、
大学院先端科学研究部長の谷時雄教授にお話を伺いました。

1928年のアレクサンダー・フレミングによるペニシリンの発見は、医薬品が大いに進化するきっかけとなった世界で最初のケミカルバイオロジーです。近年は、化合物を使い様々な生命現象を解明しようとする、生物学と化学の学際領域を活用した基礎研究も発展を見せています。生物学が専門である私自身が取り組んでいるのも、RNAの機能解析という基礎研究。放線菌が作る化合物を解析に使っており、化合物の同定や合成には化学の知識や手法が欠かせません。こういった、生物学における遺伝学と化学の融合分野は、ケミカルジェネティクス、あるいはケミカルゲノミクスとも呼ばれています。

私の研究の中では、ヒトの細胞では何の反応も起こらず、活性がなくて残念な結果に終わったはずの新規化合物が、生物学の澤進一郎教授や化学の石川勇人教授との共同研究で、実は植物の成長を抑

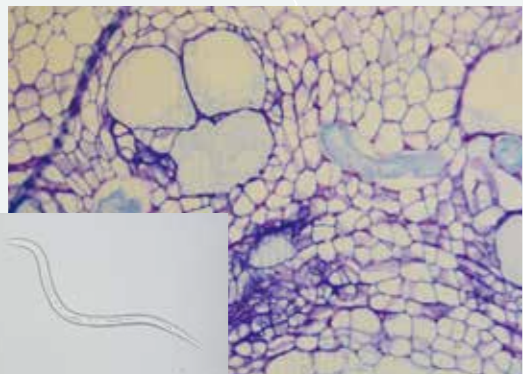
制することが分かりました。これは、ヒトを含めた動物には影響せず雑草の成長を抑制する新しい農業の実用化の可能性を生み出しました。また、井原敏博教授のよう

に、生物学と化学、さらには工学の技術が融合した基礎研究が、医療の発展に寄与することも期待されています。熊本大学におけるケミカルバイオロジー研究グループの特長は、基礎研究と応用研究、両方の研究者が在籍していること。この研究グループがさらに農業や医療などへの活用も見据えることで、熊本県はもろろん、世界の農業や医療に貢献することが目標です。

生命現象の原理を解き明かす基礎研究と、何かの役に立つことを目標とする応用研究は、両輪で進み続けることが不可欠。異分野が融合した学際研究が、その両輪をさらに力強く回す原動力となるはず

生物学と化学の融合で農業に貢献

生物学



ネコブセンチュウと、
ネコブセンチュウに感染した植物の維管束組織

化学



ネコブセンチュウを誘引する有機化合物を化学の技術で人工合成

連携

農業



ネコブセンチュウの被害を防ぐ農業やトラップ剤の開発で、
農業の問題解決に寄与

特集Ⅰ
生物学×化学

生物学と化学を融合し 感染性線虫に立ちむかう

世界中の農業に被害を与えている、植物感染性線虫。この「線虫問題」に、遺伝子解析をはじめとした生物学分野、そして化学や工学とも共同し、農業に大きな貢献をもたらす可能性を秘めた研究を続けているのが澤進一郎教授です。

「遺伝子と有機化合物から
「農作物の敵」を理解

多くの種類がいる線虫の中で、世界の農業に年間に数十兆円という損害を与えているのが、土の中に棲み植物の根に感染する植物感染性線虫。生産量を低下させるだけでなく、ニンジンなどの根野菜に感染すると、食べても問題はありませんが見た目が悪くなり、販売できなくなります。

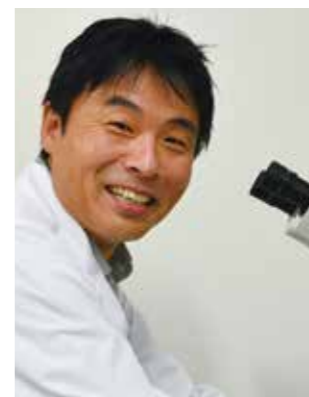
澤教授が研究に用いている手法の一つは遺伝子解析。線虫に感染する仕組みを遺伝子レベルで明らかにするために、澤教授は、根にコブをつくる線虫に寄生されにくいよう品種改良したトマートの遺伝子を解析し、根コブができない原因遺伝子を同定しました。現在は稲についても、感染しにくい遺伝子を同定できているそうです。

もう一つの手法が、生物学と化学が

融合するケミカルバイオロジー。土の中で線虫を引き寄せる、植物の根から出る誘引物質の解析と精製です。植物の根を増やして水に浸けると、誘引物質が濃縮された「根水」ができます。この根水に線虫が引き寄せられるという特徴を活かし、人工的に誘引物質を精製すれば、線虫に対するトラップ剤を作ることができます。「この誘引物質は有機化合物ですから、ここで化学との融合が重要になります」と澤教授。線虫を引き寄せる誘引物質に含まれる有機化合物の同定や人工合成は、化学分野の石川勇人教授や埼玉大学の小竹敬久教授の協力で行われています。また、トラップ剤にする材料として澤教授はセラミックスに着目。線虫が入るサイズの穴をあけたセラミックスの作製は、工学系の松田元秀教授や筑波大学の鈴木義和准教授と共同研究を進めています。

応用と貢献は、
生き物の仕組み理解の先にある

澤教授はもともと、植物同士のコミュニケーション（相互作用）をテーマに研究を進めていました。東京大学在籍中の約15年前、新規のコミュニケーションに関わるペプチドホルモンが植物に存在することを世界で初めて確認。「さらに、すべての植物が持つっており、植物の体内で細胞間の情報伝達を行っているCLEペプチドホルモン（CLV3/ESR1 related hormone）を、動物界では植物感染性線虫のみが持っていることも分かりました。線虫は、このペプチドホルモンを出して植物に感染するのではないかと考えたことが、線虫の研究を始めたきっかけです」。しかし、一度の実験で必要な数万匹の線虫を一気に集めることはほぼ不可能と言われていたという澤教授。そこに訪れた転機が熊本大学への赴任でした。「近くに農林水産省の九州沖縄農業研究所があり、線虫の培養に取り組んでいると知り、線虫の培養に取組むのは、世界でもここだけです」。澤教授のもとには、



大学院先端科学研究部
(理学系)

澤 進一郎 教授
SAWA Shinichiro

Profile

1999年京都大学大学院理学研究科植物学専攻博士後期課程修了。東京立大学、東京大学を経て、2010年に熊本大学へ。2020年より現職。専門は植物分子、生理科学。

海外からの視察や、農業メーカーからの解析依頼もあるそうです。現在は、線虫を培養する技術そのものを他の研究機関などにも提供しています。

線虫の研究について、「多くの人に貢献できるのが、応用研究のいいところ」と澤教授。しかしやはり、自身の研究は基本的には基礎研究だと言います。「もとはカビを食べていた植物感染性線虫が、ある時から植物に寄生し栄養を吸い取るようになったのは、植物の匂いを感じられるようになったからだと考えられます。人間も同じで、生きていくうえでプラスになるものは、良い匂いだと感じるはず。そんな匂い物質と受容体の組み合わせをたくさん見つけ、その共通点と相違点を見ながら進化の道筋を見ていくと、生き物の特性や多様性が見えてきます」。生物学は、生き物の仕組みを理解する学問。自身も生き物であり、花でも動物でも、好きだと思ふ対象の仕組みを勉強できることは、将来どんな道に進んでもプラスになると澤教授。これから進学する人には、メディアなど多様なツールを使って興味の対象を見つけ、大学を選ぶ際は、どんな研究をしている先生がいるのかという視点も指標の一つにしてほしいと話してくれました。



化合物の化学構造を調べる核磁気共鳴スペクトル装置（NMR）。原子のつながりである平面構造や立体的構造を明らかにすることができる

天然物の構造を化学で合成し 生命現象を解明する

植物や菌から有機化合物を見つけ、分子構造を解明。分子を人工的に合成し、生体内での有機化合物の役割を明らかにするなど、生物学と融合して生命現象の謎を追究し、新しい医薬や農薬の開発にも挑んでいるのが石川勇人教授です。

**有機化合物を合成
機能を理解し、応用へ**

石川教授の研究は、植物や、放線菌という細菌をターゲットに、これまでになかった有機化合物を見つけ、その分子構造を明らかにして同じものを化学合成することから始まります。「見つけて同じものを作る、というのが第一段階。自然界からの供給は限られるので、研究に使えるように人工的に作りだします」。そして、その有機化合物が生体内でどんな役割を持つのかを明らかにすることが、化学と生物学との学際領域。例えば、植物の成長を抑制する化合物に蛍光発色する分子を化学合成により取り付けることで、その化合物が細胞内のどこにあるかを見つけることができます。「私たちが見つけ化学合成した、ここにしかない化合物を使って生体内で何が起きるかを見る。有機分子をツールにして生命現象を解き明かす基礎研究です」。

生物学の澤進一郎教授と進めている線虫の研究も、「大豆の根から化学物質が漏れ出て、それに線虫が引き寄せられていく。漏れ出す化学物質も、それとくっつく線虫の受容体も有機分子です。なぜ線虫が引き寄せられるのか、深く追求していくためには化学の技術

特集1
生物学×化学

**知識と技術を積み上げる化学は、
苦勞が報われる学問**

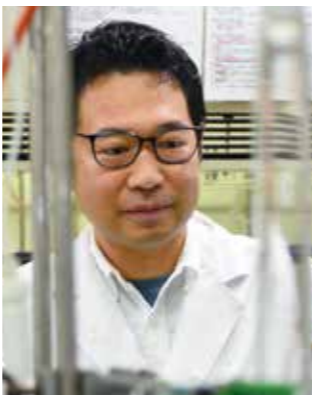
が必要になります」。人間も含め生物は複雑であり、それを理解するためのケミカルバイオロジーは、「生物学と化学のすてきなコラボレーションだと思えます」と語ります。

石川教授は、生命の理を追究する基礎研究に加え、生物学の谷時雄教授や澤教授、そして薬学系の先生方と、有機化合物を新しい薬品の開発につなげる応用研究も進めています。「目標は、農業被害による世界の飢餓問題の解消です。通常では人体に毒性がある有機化合物でも、分子構造を人工的に改造すれば毒性をなくすることもできます。これを活用すれば新たに環境やヒトに優しい農薬が開発でき、結果として、農作物の生産量を増やすことができます。このような研究に取り組んでいるのは、薬学出身で生物学が好きな化学者である私の特徴かもしれません」。

**アイデア次第で
世界レベルの研究ができる**

もともと生物の免疫系に興味があったという石川教授。生命現象の根幹を成すDNAやタンパク質は有機化合物なので、化学的アプローチでその謎を解き明かすことが可能になるといいます。もちろん化学にも難しいことはたくさんあります。例えば、有機化合物を合成する際の手順づくり。いかに合成手順を組み上げるかに苦勞するといいます。「有機化合物を化学合成する際には、数種類の試薬を順にフラスコに入れ、混ぜたり熱したりしますが、途中で失敗すれば土台づくりからやり直しということもよくあります。でも、知識と技術を積み重ねていけば、必ず台成ルートは開拓できます。努力が報われる学問。それが化学だと思います」。

「熊本大学では、自分の技術を必要としてくれる澤先生のような他分野の研究者が目前にいることにやりがいを感じます。線虫の研究も含め、自分だけでやるのではなく、それぞれの突出した専門家が手を組んだ方が良い。それが、学際領域が注目される理由でもあります」。研究設備の良し悪しに左右されにくい化学分野は「アイデア次第」と石川教授。「熊本大学の研究レベルは世界トップクラスの大学と変わりません。ここで学んで世界で活躍する人材になることは、珍しい話ではありません。ぜひ、熊本大学で真剣に挑戦してみませんか」。



大学院先端科学研究部
(理学系)

石川 勇人 教授
ISHIKAWA Hayato

Profile
2004年千葉大学大学院医学薬学教育府博士後期課程修了。東京理科大学等を経て2018年より現職。専門は天然物化学、有機合成化学。

人工合成で得た機能性核酸で 生命の謎の解明に迫る

酵素による合成や化学合成という人工的な合成の手法を使い、生命現象の原理解明に挑んでいるのが、井原敏博教授です。より高度な遺伝子診断や新しい薬の開発にもつながる、最先端の研究です。

特集1
生物学×化学
生物進化

DNA、RNAを人工合成し 生命現象を解き明かす

生命現象の主役と言える核酸。核酸には主に、体の設計図であるDNAと、必要な時にDNAから部分的にコピーされ、タンパク質合成など生命活動を支える多様な仕事をするRNAがあります。井原教授らの研究は、DNAやRNAを人工的に合成し、その機能を明らかにすること。さらにその先には、より高度な遺伝子診断や遺伝子治療薬の開発も見据えています。

合成には、酵素による合成と化学合成があり、合成するDNAの長さや量によってどちらかを選択します。非天然の分子をDNAに取り付けて目的の機能を持たせる場合には、化学合成が便利だと井原教授。井原教授らが合成した、光る分子や電気を流す分子、物理的・化学的刺激で繋がる分子などを人工合成した機能性核酸は、高感度な遺伝子診断やがん細胞の検出に活用できます。「2001年にヒトゲノムの解読が終了し、ヒトの遺伝子と疾病の責任遺伝子の関係がかなり分かってきました。例えば、がんになりやすいと分かっている変異遺伝子に対し、相補的に結合するDNAプローブ（検出子）を合成します。そこに、がん遺伝子に

実験に使われるDNA/RNA シンセサイザ。自動で塩基組み合わせを作ることができる



くつついた時にだけ光を発する分子を入れておくと変異遺伝子があることが分かり、がんになる可能性が高い、という判断ができます」。

DNAやRNAという核酸を合成する化学的手法で生命現象の理を解き明かす井原教授の研究。遺伝子診断や薬の開発にもつながるこの研究について、「生命の原理を知りたい、新しいものを作りたい、という両方の欲求を持ちながら進めています」と話してくれました。

生物進化の早回し再現で 新たな分子の開発へ

精緻に分子設計を行って核酸を合成する手法は「超分子工学」と呼ばれます。一方、今、井原教授が着目しているのが、この20年で発展を見せてきた「分子進化学」。これは、核酸の変異と淘汰を

試験管の中で「早回し」で繰り返し、最終的に目的の機能を持つ分子を取得する工学です。いわば、生物が長い時間をかけて行ってきた進化を試験管内で再現する技術。「実験者は、核酸が淘汰され進化するための条件を設定しますが、最後は進化任せ。精緻な分子設計が肝になる超分子工学の対極にある科学です。この技術と私たちの有機合成の技術を組み合わせると、実に多様にはないかと考えています」。

化学について、「人間的な感情も含め、すべての生命活動には何らかの物質性があり、化学の言葉で説明できるはず。だからこそ、生命と化学の接点に興味をかき立てられます」と井原教授。その中でも遺伝子が絡む生命活動に魅力を感じたことが、この研究へと進んだ理由です。「一言で言えば、ゲノムケミストリー。あるいは、核酸化学

に重心を置いたケミカルバイオロジーです。医療を含む多様な目標も設定できる核酸化学は、化学者が生命科学に貢献できる格好の舞台だと思います」。

「好き」と「得意」があれば 必ず道は開ける

このような学際領域での研究においては、互いに離れた分野同士違う分野が結びつけば必ず新しい何かが生まれと評価しつつ、「ただそれは、各分野の最先端研究があるからこそ。学生にはまず、化学、物理、生物といった伝統的な枠組みの中で、確立された分野をしっかりと学んでほしいと思います」。NHKのドラマ『エール』にあったセリフ「人よりほんの少し努力するのが辛くなくて、ほんの少し簡単にできること。それがお前の得意なものだ。そ

れが見つかれば、しがみつけ。必ず道は開く」を引用し、人生の選択には、「好き」と「できる」、という両方があったほうが良いと井原教授は語ります。学生の皆さんに、「様々な体験を通して好きなこと、得意なものを見つけてください」と「エール」をくれました。



大学院先端科学研究部
(工学系)

井原 敏博 教授
HIRAHARA Toshitaka

Profile
1993年九州大学大学院工学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員、米国ラトガース大学客員研究員等を経て、2010年より現職。専門は分析化学。



研究室探訪

Laboratory Report

先生 interview /



はば ひでお
馬場 秀夫 教授

研究は壁の連続 乗り越えた経験を 臨床現場に活かしてほしい

消化器外科は、治療対象のほとんどが消化器のがんです。がんは治療成績も向上していますが、同じがんに同じ治療をしても、治る人と、治療の甲斐なく亡くなる人がいます。その差を決定しているのは何なのか。この研究室では、がんの発生や進行、転移など、その仕組みを明らかにする研究、そして、患者さんによって差がある治療効果を予測し、より良い治療法を選択できるようなするためのバイオマーカーの探索等を行っています。外科であるため、手術前の生体検査や手術で切除した実際の標本、予後データなど、臨床データを解析できることが強みです。

研究室のメンバーは、臨床現場で5、6年の経験を積んだ医師ばかりです。治療にベストを尽くしても、予後に差が出るのはなぜなのか。研究を通して解決策を見出そうとがんばっています。臨床では、目の前の患者さんに様々なことが起こります。なぜなのか、そしてどうすればその状況を改善できるのかという探究心を持つ人に、この研究室に来てほしい。挫折もありますが、その壁をどう超えるかを常に考えるのが研究です。研究室で難解な問題に取り組んでステップアップしたことを、臨床に活かしてほしいと思っています。

大学院生命科学研究部 消化器外科学

馬場 秀夫 教授
BABA Hideo



がんを克服する人を一人でも増やすために
—がんを理解し、より良い治療法を確立する研究を行っています

密着!
大学院生命科学研究部
消化器外科学



米国癌学会 2019 の様子



研究室で旅行も行っています

がんの原理に迫り、克服する。そんな思いを共有しています

—現在、どんな研究を?

食道がんを研究しています。食道がんにはフソバクテリウムという細菌が関係しており、食道がんの組織にこの細菌が多い人は予後が悪いという事実を、私たちの研究室から報告しています。

オンオフがしっかり分かれ、今はできませんが、オフには和気あいあいと飲み会や旅行を楽しむ研究室です。そんな場には馬場教授も参加。時には厳しい、私たちにとっても大きな存在です。がんについては分からないことも多く、少しでもその原理に迫り、早期発見やより良い治療法の確立に繋がれば、という思いを全員が共有しています。



大学院医学教育部
博士課程4年
の もと たいち
野元 大地さん

予後が厳しいすい臓がん。新しい治療のきっかけを見つけないか!

—なぜこの研究室に?

予後が悪いがんの代表とされるのがすい臓がん。手術できる人自体が少なく、手術して完治できる人はさらに少ない、というがんです。外科医として、限界を感じるすい臓がんについて、新しい治療のきっかけになるようなものを見つけたらと思うて研究を行いました。

臨床現場では失敗はできませんが、研究では、失敗し、なぜそうなったか、次はどうすればいいかを考えて先に進むことが不可欠です。研究生活で日々自覚していた、毎回自分が行ったことを振り返り、次を考えるステップは、今後臨床に戻ってからでも無駄にしないようにしたいと思っています。



医員
いとうやま るみ
伊東山 瑠美さん

メンバーが見た!

大学院生命科学研究部 消化器外科学 **3**つの特徴

- 1 研究テーマ**
がん幹細胞、がん細胞の周りにおける微小環境、腸内細菌等の研究によるがんの発育進展機構の解明および治療効果を予測するバイオマーカーの探索等を行っています。
- 2 先生**
毎週のカンファレンスにも必ず参加。時に厳しく、常に身近に、一人ひとりを力強く支えてくれるすごい先生。
- 3 ブラックジャックセミナー**
本物の器具で外科医体験をする高校生向けセミナー。外科医は自分の技術が治療の武器。未来の外科医を待っています!

Lab's Data

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 学位テーマ ・LINE-1解析を起点とした癌と精神疾患の病態解明 ・老化に伴う幹細胞機能の変化と発がんメカニズムの解明 ・代謝リプログラミングを基礎とした疾患の解明と新規治療法の開発 ・消化器癌の革新的治療法開発を目指した腸内細菌叢の網羅的機能解析 ・代謝を基盤とした癌のグローバル先端研究 ・消化器癌における免疫チェックポイント分子の発現と薬物治療の効果 ・消化器癌におけるサルコペニアの関与 | <ul style="list-style-type: none"> □ 就職先 国内外病院 |
| <ul style="list-style-type: none"> □ メンバー ・教授1名 ・特任准教授3名 ・准教授1名 ・講師1名 ・診療講師3名 ・助教3名 ・特任助教3名 ・医員20名 ・大学院生20名 | <p>ほか</p> <p>ほか</p> |



オンライン授業の様子

オンライン授業と
対面授業

そのとき、
新入生は。

—— 一歩ずつでも、あゆみを止めずに。オンライン授業開始 ——

不安だらけの大学生活スタート
「学問に取り組みながら、自由で、好きなことに挑戦できる大学生活」。そんなイメージで期待を膨らませていましたが、入学式すら行われず大学に行けなくなって、大学生活というものを実感できないまま、数カ月が経過しました。同じ高校から熊本大学に進学した同級生が多く、彼らとは連絡を取り合えましたが、それ以外の新しい横のつながりや先輩方や先輩という縦のつながりも作ることができず、何も分からないまま、不安の大きいスタートでした。



法学部法学科1年
境田 有真さん
さかいだ ゆづま

集中力持続が難しいオンライン授業
先生方の工夫に感謝

そんな中で始まったのがオンライン授業。オンラインでの講義は集中力を維持するのが大変です。自分自身で意志を強く持ち、授業を受ける必要があります。でも、講義後に質問コーナーを設けていただいたり、後日、オンライン講義の丁寧な解説を閲覧できるようにするなど、工夫して下さる先生方もおられて、ありがたく思いました。部活やサークルは、先輩方がSNSを使って積極的に発信されていることを知りまして、興味があったサークル紹介などを見て、入部するサークルを決めることができました。

現在は、対面授業とオンライン授業の両方が行われています。対面授業が始まると、LINEだけでつながっていた同級生と初めて会えたりして、横のつながりも増えていきました。大学のキャンパスで、直接先輩や先輩方、同級生と関わりながら大学生活を充実させていけることは本当にありがたいことだと、改めて気づかされています。

※対面授業は6月1日から一部科目で実施されています。
※このインタビューは8月12日に行われました。

それでも、 できることはある。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと「主体的」に動いた熊大生



2020年の幕開けと同時に始まった新型コロナウイルスの感染拡大。熊本大学は、2020年度の入学式を中止。課外活動の自粛などを行いました。

そんな厳しい状況の中、熊大生はどう動いたのか。新入生の不安にどう対応したのか。

学生たちにインタビューしました。



インターネットで開催されているバーチャル・オープンキャンパスでは、学生も動画作成などを行った。学内のドローン撮影では、職員に操作を教わって、キャンパスの雰囲気や建物の動画を撮影した。

熊大バーチャル・オープンキャンパス2020

—— オンラインで伝える熊大の魅力 ——

例年8月に行われているオープンキャンパス。今年はインターネットを活用し、熊大を目指す受験生に熊大の魅力や授業の楽しさを伝えようと、バーチャル・オープンキャンパスのWebサイトを立ち上げました。学生が撮影した学内のドローン映像や、まるでキャンパスにいるような気分が味わえる360度動画など、コンテンツも多彩。各学部で作成した学部の紹介動画や先輩からのメッセージも見られます。ぜひ、ご覧ください！



バーチャル・オープンキャンパス2020公式サイト

熊大バーチャル・
オープンキャンパス
QRコード





ラグビー部

感染症拡大防止対策を行った上で、時間を限定して行われていた練習



天文部

昨年度実施した観測会での星空の様子



ラグビー部主将
工学部物質生命科学科4年
古達 尚樹さん
ふるたち なおき

新入生勧誘に関しては、ラグビーに興味を持ってもらえるような動画や、YouTubeで限定公開して

改めて、人とのつながりに感謝！

新入生勧誘に関しては、文化部のサークルが合同でZoomを用いて実施。体育系サークルと連動し、新入生への呼びかけなども行いまし

自分たちの責任を考える良い機会



天文部部长
理学部生物学コース3年
石田 航己さん
いしだ こうき

た。文化系と体育系サークルが連携してなにかやるのはこれまでなかったのではないかと思います。活動ではいつも実施している春休みの合宿を中止。その後もほぼ何の活動もできていません。しかし、私たちがもし感染すれば、家族や、大学、アルバイト先にも影響が及びます。自分たちの責任や及ぼす影響を改めて考える良い機会になりました。活動再開の許可が出たら、しっかりと感染予防対策をして、新入生を含め、天文に親しむ人を増やしたいです。

いた試合の動画をみんなが見られるようにするなどして対応しました。入部した新入生とは直接ダイレクトメッセージなどで連絡を取り合いながら、練習再開の時期を待っているところですが、今回のことでは、部活も含めて、どんな活動も周囲の人がいてこそ成り立つと改めて実感し、感謝の思いが深まりました。下級生もいろんなことを提案してくれ、こんな状況だからこそ自主性が高まったと思っています。

※課外活動は感染防止の徹底を確認した上で6月8日〜8月4日まで行われていました。10月1日から、大会等に向けた公認サークルの活動は再開されます。

いつも以上に結束！ サークルの先輩たち

準備していた新入生歓迎企画も中止。
それでも先輩たちは、各活動の魅力ができる限り発信し、
新入生の不安を払しょくするために、動きました！



新入生を対象にドリンクなどを配布するイベントを開催

SNSで新入生応援メッセージ

奥田・入学式での中止や課外活動の自粛を知ったときは新入生歓迎イベントですごくいい企画を考えていたので、本当にショックでした。そんな中、自分たちに元気をくれたのが、大学や卒業した先輩から届いた多くの応援メッセージ。できることをやろう、ということになりました。

もともと、体育会ではSNSにもっと力を入れようと考えていました。そこで、数回にわたり部活紹介をオンラインで行う新歓企画について、体育会のインスタグラ

体育会本部



第61代委員長
工学部 社会環境工学科
奥田 耕大さん
おくだ こうた



第61代広報長
工学部 材料応用化学科
石揚 翔さん
いしあげ かける

ムやツイッターで情報発信。初めての取り組みとしては、多くの入部につながったと思います。また、新入生を励ますメッセージを書いた紙を持ったサークル生の写真を体育会が取りまとめ、SNSで発信。本当にいい言葉ばかりで、自分たちも力をもらえました。

石揚・課外活動の一部再開を受けて、新入生に対し、大学周辺のお店で使える商品券や飲料品の配布も行いました。この費用は、これまでに先輩たちが「何かあった時のために」と、積み立ててくれていたもの。今がその時だと考え、ありがたく使わせてもらいました。新

体育会系サークルを紹介する冊子「CO!」と地域の飲食店を紹介するマップを作成して配布



入生が笑顔でお礼を言ってくれたり、実際に使ってもらえたという連絡を店舗から頂いた時は、嬉しかったです。

奥田・これからは世の中はどうなるかわかりませんが、その中で出来ることに精一杯取り組み、それ自分たちの力になると思っています。第61代体育会のスローガンは「新風」。厳しい状況下だから新しいことに取り組み、親しんでもらえる体育会にしたいと思っています。

SNSでの合同情報発信

— #kumadaioneteamでみんな情報発信！ —

体育会本部では、各サークルの情報発信をまとめるために、「#kumadaioneteam」のハッシュタグを設定しました。各サークルの活動内容紹介や部員紹介、体験会の案内などをみんなで発信し続けました。zoomを活用した新歓イベントのお知らせもここから発信。約500件の投稿で新入生歓迎の思いも伝えました。



文 地元貢献したいと、市役所職員に。行政や法律について学ぶ毎日です



熊大のココがイイ！

研究内容も自然人も豊か。学ぶ環境が整っていて、のびのびと勉学に取り組めるところがです。

読書好き。民話や神話と文化のつながりにも興味

学生の頃から読書が好きで、将来は本に関わる仕事がしたいと考えていました。また、民話や神話などの文化や伝統に関連した物語に興味があり、土地の文化と文学の関係や繋がりについて研究したいと思っていました。

よく時間を過ごした、お気に入りの図書館

大学生時代はのびのびとした生活をさせてもらっていました。所属していたサークルで、紫熊祭に屋台を出す活動に参加したり、図書館がとても大きくてきれいだったので、よく、ずっと本を読んで過ごしていたりもしました。研究室の皆さんがとても親切で、課題や論文にも楽しく取り組むことができました。

多様なサービスが提供できる職員に

地元で貢献したいという思いがあり、現在は宮崎県の都市役所に勤めています。行政や法律の知識など学ぶことができ、分かりやすい説明ができるよう勉強する日々を過ごしています。職員として市民の皆様にも多様な市民サービスを提供できるよう、精進しています。

理 災害や環境保全に関する調査業務 難しいことを解決する過程も楽しい！



熊大のココがイイ！

研究が充実していて、尊敬できる先生・先輩がたくさんいる！

理数系全般が好き。理学部入学が楽しかった

恥ずかしながら小学生の頃、東町中学校⇒第二高校⇒熊本大学という進路は決定しているものだと思い込んでいたので、夢は熊本大学に入学する一心でした。理学部は一学科制で、1、2年で全科を学び、3、4年で専門を絞って深めるカリキュラムでしたので、理数系全般が好きな私にとって夢のような学び場で入学が楽しかったです。

熊本の地下水の素晴らしさを知り、研究

大学では、幅広い分野の講義を選択でき、様々な知識を取り入れることが楽しかったです。また、教員や学芸員にも興味があり、免許や資格も取得できました。3年次には、熊本が世界でも希少な地下水都市であると知り、特に気にせず飲んできた水の素晴らしさに感動し、地下水の研究をさせて頂きました。その中ではいろいろな方々と出会い、その交流は今も続いています。

入社8年でも、毎日が新鮮で楽しい仕事

地下水に関わる仕事がしたいと思い、現在勤務している会社を選びました。社会インフラ整備や災害や環境保全に関する調査が仕事です。入社して8年目になりますが、日々取り掛かる業務は新鮮で楽しいです。課題が出て、頭を悩ませることもありますが、解決していく過程もなお楽しいです。責任も伴いますが、やりがいのある仕事に出会えて良かったです。

医 医療にもっと貢献できるよう、看護師として働きつつ大学院で勉強



熊大のココがイイ！

ほどよく都会で、とにかく楽しいです！今でも熊本が大好きです！

最初の目標と違っても、看護師の道に後悔なし

高校生の頃、はっきりとした夢は持っていませんでしたが、医療関係の仕事に興味を持っていました。また、人と話すことが好きで、人と直接関わることができる仕事をしたいと思うようになりました。実は当時は看護師ではなく理学療法士を目指していましたが、受験に失敗し、看護師への道を進むことに。しかし今では、この道に進んだことを後悔していません。

人との繋がりを広げられた大学時代

仲間にも恵まれ、授業だけでなく、私生活でも遊んだり旅行に行ったりと、非常に楽しい大学生活でした。サークルに所属することで、他の学部生との関わりを持ち、人との繋がりを広げられたことも、今思うと貴重なことだったと思います。もちろん先生方にもお世話になりましたし、たくさんの人と出会えたことに感謝しています。

医療経営や医療管理についても学びを深めています

現在は看護師として勤務しながら、大学院に通い、医療経営や医療管理について勉強しています。看護の視点のみでなく、医療をあらゆる視点から見ることで、これからの医療ニーズを捉え、看護師として、医療界に貢献できるよう努力しているところです。

法 不動産関係の事件を中心に活動 少年事件や児童虐待にも注力



熊大のココがイイ！

一生涯付き合える素敵な仲間と出会えるところ。

中学時代から法曹への思いを抱いた

「正しいことをしたければ偉くなれ！」という刑事ドラマのセリフに触発され、中学生の頃から漫然と法曹になろうと思っていました。高校時代は、刑事事件の捜査や被疑者の取調べをしたかったので検察官になりたいと思い、検察官の立場から犯罪被害者の保護を行いたいと考えていました。

体育会での企画や運営に力を注いだ大学時代

体育会ソフトテニス部だったので、テニスコート、バイト先である居酒屋、そして家の間の往復ばかり。大学4年時は、体育会本部の役員となり、新歓イベントや、私の代で初めて体育会で開催した阿蘇耐久遠歩大会の企画・運営を行っていました。法科大学院に入学してからは、自習室で勉強の毎日でした。

すべての子どもたちに、笑顔で生活してほしい

現在は、不動産関係の事件を中心に多種多様な事件を取り扱い、日々、困難な事件に挑戦しています。中でも私自身が力を入れている活動は、少年事件や児童虐待に関連する事件です。難しい事件が多いですが、すべての子どもたちが笑って生活できるようになれば、と思いながら活動しています。また、学校で弁護士が授業を行う出前授業なども行っています。

薬 がん患者さんに接する機会も多い仕事 薬を通した日々の安心を提供したい



熊大のココがイイ！

先生と学生の距離が近く、卒業後も困ったときにはサポートしていただいています。

修学旅行の大学訪問で、薬剤師を意識

小さい頃から漠然と医療職に就きたいという思いはあったのですが、薬剤師という職業を意識し始めたのは、高校の修学旅行で訪れた東京での大学訪問がきっかけでした。また、現在勤めている地域の病院で祖母の命を救っていただいたことで、病院で働きたいと考えるようになりました。

長いようで短かった、充実の大学9年間

学部生時代はバドミントン部に所属しており、試合に出たり、旅行に行ったり、飲み会をしたりと楽しい日々を過ごしました。研究室配属後は臨床研究を学び、先生方の丁寧な指導のもと、数多くの学会発表や論文執筆の機会を与えていただきました。大学で過ごした9年間は長いようで短く、とても充実したものでした。

入院患者さんへの服薬指導や医師への提案も

現在は呼吸器・腫瘍・糖尿病内科の病棟担当薬剤師として、入院患者さんへの服薬指導、副作用管理や医師への処方提案などを行っています。特にがん患者さんに接する機会が多く、安心して抗がん剤治療を受けてもらうために薬を通してできることを日々考えながら業務に取り組んでいます。

工 信頼性の高い特殊鋼を生み出す プロセス開発の研究に従事



熊大のココがイイ！

歴史と伝統がある環境で、熱い仲間とともに学べるところ。

自動車や航空機を見て、人に役立つモノづくりに興味

高校時代は、明確な夢はなかったのですが、日々の生活で欠かせない自動車や航空機などを見る中で、「将来は人の生活の役に立てるモノづくりをしてみたい」という漠然とした思いは持っていました。そこで、工学系の幅広い分野を学ぶことができる機械システム工学科に入ることを決めました。

忘れられない、充実した3年間の研究生活

大学生活で印象に残っているのは、研究室に在籍していた大学4年から修士2年までの3年間です。先生の指導のもと、研究室の仲間と研究に取り組み、学会での発表など貴重な経験もさせていただきました。また、旅行や飲み会など、思い出に残る楽しい時間も過ごすことができました。

開発研究2年目。主体的に動くことを意識

現在は大同特殊鋼株式会社でプロセス開発の研究を行っています。信頼性の高い特殊鋼を生み出すため、より良い特性を引き出すことを目標にやりがいを持って取り組んでいます。今年度から2年目となり、主体的に動くことを意識し、日々貢献できるよう努力しています。



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教 ほかの先生方とともに学び続けながら より良い英語教育のために努力



熊大のココがイイ！

温かく厳しい先生方。切磋琢磨できる仲間たち。熊本大学が夢を叶えてくれました。

転校が多い中、出会った先生方に憧れて

小学校の頃から素晴らしい先生方にお世話になってきました。幼少期は転校する機会が多く苦勞もありましたが、その頃出会った先生方が私と友だちを繋いでくださいました。私も憧れの先生方のように、子どもたちの成長を支える教師になりたいと考えていました。

英語教師志望のきっかけは、大学の英語科の授業

英語科の授業はとても面白く、英語科の教員として生きていきたいと強く思うようになりました。また、体育会卓球部に所属し、全国国立大学の卓球大会を運営したり、教育学部の体育祭の実行委員をしたり、かけがえのない時間を過ごすことができました。大学で出会った友だちは一生の宝です。

離島の中学校での3年は、忘れられない思い出

大学卒業後は中学校英語科教師として働いています。忘れられない思い出は離島の中学校に3年間勤務したことです。開校の最後の1年をそこで過ごし、地域の中での学校の存在価値について考えることができました。現在は熊本の先生方と英語教育について共に学びながら、充実した日々を送っています。

REPORT 留学生への支援物資をいただきました

6月に、熊本大学国際交流支援者会「ボギーズ」より、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下にある本学留学生へ、食料品をはじめ、タオルやマスク等の生活支援物資を提供いただきました。「ボギーズ」は、地域の国際交流団体等と連携して、本学の国際交流を支援するとともに、地域の国際化や国際交流活動の活性化、さらには、多文化共生社会の構築を図ることを目的として、本学の教職員を中心に発足したボランティアグループで、設立10周年を迎えられました。例年、本学の留学生交流パーティーの運営支援やサマープログラムのホームビジット受入といった支援を行っていただいています。感染対策のため、直接手渡していただくことはできませんでしたが、受け取った留学生からは、感謝のメッセージを集めた寄せ書きが贈られました。



REPORT 学生ボランティア用のフェイスシールドを寄贈いただきました

熊本創生推進機構地域連携部門では、令和2年7月豪雨災害の被災地に対して、学生ボランティアの派遣、引率を行っています。この度、(株)ニフコ熊本様(東証1部上場(株)ニフコ様の子会社、菊池市に立地)から、学生ボランティア用のフェイスシールドを300個寄贈いただきました。今回寄贈いただいた(株)ニフコ熊本の親会社の(株)ニフコの堀内一輝様(熊本拡充P)シニアエキスパート)には、「地方創生企業戦略論1」の授業において、非常勤講師として学生への教育も行っていただいています。コロナ禍でのボランティア活動については、感染対策も大変重要なため、フェイスシールドの寄贈はありがたく心より感謝申し上げます。今後もこのフェイスシールドを活用して、ボランティア活動を続ける予定です。



(株)ニフコ熊本総務課長の潮崎充様(左)と熊本創生推進機構の高口義幸客員教授(右)

REPORT 令和2年7月豪雨被災地での学生ボランティア活動について

熊本創生推進機構地域連携部門では、熊本地震被災地へのボランティア活動の経験を活かし、7月21日(日)より不定期で令和2年7月豪雨の被災地である人吉市、球磨村、芦北町等で学生によるボランティア活動を実施しています(7月のべ16名、8月のべ51名)。地域連携部門の教員の引率により、以前から交流があった球磨焼酎酒造組合の被災店舗の片付けや、球磨村の住民が避難された旧多良木高校での避難所運営の支援活動、各ボランティアセンターを通じて個人宅の泥のかき出し・片付け等の活動を行ってきました。今回はコロナ禍での活動であるため、事前のPCR検査を必須とし、感染症を含む災害ボランティアの事前講習会(e-ラーニング)を受講した上で、感染防止に十分注意して活動を行い、活動後の体調報告も実施しています。その他、学内に古タオル等の支援物資の提供を呼びかけ(現在は終了)集まった物資の仕分けや、現地ボランティアで使用した物品の洗浄、マスク作成等の後方支援のボランティア活動も行っています。地域連携部門では、今後も被災地に対して息の長いボランティア活動を行っていく予定です。



REPORT 「熊本市災害ボランティアセンターの設置場所に関する協定」を締結しました

8月24日に、大規模災害時におけるボランティアセンターの迅速な設置に協力するため、熊本市及び熊本市社会福祉協議会と「熊本市災害ボランティアセンターの設置場所に関する協定」を締結しました。この協定は、平成28年熊本地震の際に熊本市が臨時で災害ボランティアセンターを設置したことに基づき、同センターの設置場所を熊本市各区に確保することを目的としており、熊本大学は中央区において大江総合運動場を提供することとしています。また、熊本保健科学大学が北区の設置場所として同様に協定の締結を行いました。この協定により、災害ボランティアの派遣が求められる事態となった場合でも、熊本市各区の災害ボランティアセンターが機能することで、より迅速かつ効果的なボランティアの派遣に結びつくことが期待されます。



左から、大西一史 熊本市長、原田信志 熊本大学長、竹屋元裕 熊本保健科学大学長、潮谷愛一 熊本市社会福祉協議会長

熊本大学が行っている地域や社会につながる調査、研究の取り組みについてご紹介します。

地域と熊大

熊大と豪雨災害

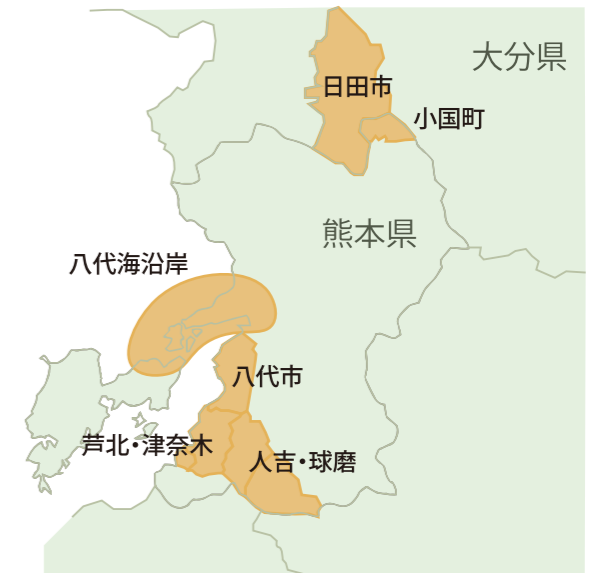
2020年7月豪雨災害の現地調査をくまもと水循環・減災研究教育センターが実施

くまもと水循環・減災研究教育センターは、熊本県の自然環境の特徴である、地下水循環・沿岸環境・減災・地域づくりの研究を総合的かつ実践的に推進している機関です。2016年の熊本地震でも被災した地域の調査を行い、復興支援にも取り組んできました。

センターでは、2020年7月3日夜から4日朝にかけて熊本県南部を襲った豪雨災害についても、いち早く被害状況の現地調査を実施。7月5日は人吉、芦北、津奈木の被災地域に入り、浸水深や氾濫被害、土砂災害の状況を調査しました。

その後、8～19日にかけて、人吉市、球磨村、芦北町、津奈木町に加え、八代市、宇城市、上天草市、小国町、大分県日田市など、今回の豪雨災害の被害地を現地調査。降水状況や八代海への影響の様子などを調査しました。

今後は、河川や土砂災害、橋の被害、気象状況の解析、海洋への影響に加え、ボランティア活動や避難行動、避難所運営などについても調査を行っていく予定です。



・・・調査地域



人吉市球磨川堤防付近の調査 青井阿蘇神社沿いの洪水痕跡記録調査

人吉市の調査風景



芦北町の土石流により破壊された道路

宇城市の松合漁港付近の流木

球磨村渡地区の被害状況

くまもと水循環・減災研究教育センター 検索

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.51 (令和2年5月1日～令和2年7月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約14億8,167万円(令和2年7月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する学費支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和2年5月1日から令和2年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人179名、5法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【10万円】 勝田 真弓(13) 楠田 美知子(10) 富澤 一仁(26) 松本 泰道(90)

【5万円以下】 板井 亨介(25.1) 岡部 進(7) 兼重 佳和(2) 北原 公寛(1) 須田 年生(501)
中村 隆義(1) 原 正大(3) 村瀬 弘幸(4) 本島 昭男(25)

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

秋岡 稔[2] 阿南 一喜 磯田 信一[2] 市川 聡夫[2] 今井 博昭[13] 太田家 裕一[4] 大谷 順[2] 大淵 千尋
表田 透 榎 修一郎[7] 加藤 進一 上城 洋一[4] 川口 賢 河野 美奈[2] 河村 久幸[4] 黒木 林太郎
鯉沼 陸央[2] 児倉 静二[11] 後藤 貴子 坂本 康尚 佐藤 綾美[3] 佐分利 広雄 谷原 秀信 近本 亮[5]
月岡 信隆[3] 弟子丸 直美[2] 外山 陽一郎 永井 陳雄 長野 弘 長野 由美[5] 中村 浩一[2] 西山 弘樹[2]
野口 健一郎[3] 野村 敏秋[2] 花田 法久[2] 林田 敏嗣[2] 原 素子[5] 原田 信志[4] 東 大弼[6] 久野 晋之介
平野 一字[2] 福岡 潤 福本 哲也[2] 堀之内 広[2] 前田 浩[6] 真子 美佐子 真佐喜 彰[6] 増村 隆之[3]
松岡 秀幸 松村 徳恵[2] 養田 勝彦 両角 光男[9] 安田 宏正[4] 八幡 英幸[4] 矢原 幸治[3] 山尾 敏孝[7]
山田 康代[4] 株式会社KINTO 熊本大学脳神経外科講座 有限会社内牧中央薬局 有限会社泗水中央薬局

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人106名、1法人・団体等

文学部文学科に多言語文化学コースが新設されます

2021年4月、文学部文学科に多言語文化学コースが設置されます。

本コースでは、文学や文化を複眼的・国際的に考察する視野を養います。また、本コースには、「比較文学」「国際文化学」という2つの履修モデルがあり、「比較文学」は、異なる言語や文化を背景とする文学・芸術作品の特色を、「影響」「受容」「変容」に目を向けることで明らかにします。「国際文化学」

はより広い意味での文化を研究対象とし、様々な文化の特色を、異文化同士の接触に注目して明らかにします。いずれの履修モデルも、固有の作品や現象から、人類にとっての文学や文化の普遍性を探求します。

【問い合わせ先】 人社・教育系事務課文学部教務担当
TEL: 096-342-2317
E-Mail: jsj-bungaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

**広い視野から
世界の様々な文学、文化を比較**

「比較文学」は、文学作品に限らず、今日では美術、映画、音楽といった視覚、聴覚表象全般を研究対象とします。開かれた視野から、物事をなるべく相対的に捉えようとする学問です。世界の様々な文学作品や文化現象を比較し、差異や共通点を知ること、自分の所属する文化や文学に対する理解も深まります。



身につけることのできる
知識とスキル

**異文化理解を深め、
国際交流の実践に活用**

「国際文化学」は、外国語運用能力をもとに各言語・文化圏について学ぶだけでなく、国際的な視野から文化を捉えることにより異文化理解を深めることを目指します。また、文化接触によって新たな文化が生まれる文化変容のプロセスを学びます。国際交流が進むグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指します。

開講予定科目例	
科目名	説明
比較文学・国際文化学入門	文学・文化は言語や国境を越え普遍性があることを学び、比較文学、比較文化、文化接触についての理解を深めます。
比較文学概論Ⅰ	比較文学研究の方法、すなわち「影響」「伝播」「受容」「変容」「翻訳」などを、具体的な研究例を通して学びます。
比較文化論演習	欧米文化の日本における受容のあり方を、その時代背景に対する理解を深めながら学習します。
比較文学特殊講義Ⅰ	欧米文学の東アジアにおける受容や、東アジア地域の文学・文化の関わりなどについて、体系的に深く学びます。
国際文化学概論	言語文化、宗教、多文化共生、文化の越境など国際的視点から文化を学びます。
外国語演習	異文化理解に不可欠な外国語能力を2年次で確実に要請します。
国際文化学演習	国際文化についての理論的な研究を参考に、各自の問題意識にもとづき発表や議論を行います。

大学院人文社会科学部 国枝春恵教授出演の演奏会が「ケンゲキアートチャンネル #おうちで拍手を！」にて配信中



新型コロナウイルス感染症の影響により舞台芸術活動が制限されている現状において、県内の実演芸術の担い手支援および県民への鑑賞機会の提供を目的として、熊本県立劇場が熊本県内の文化芸術団体や県内在住または出身のアーティストの動画作品を紹介する「ケンゲキアートチャンネル #おうちで拍手を！」にて、大学院人文社会科学部 国枝春恵教授の下記の作品2曲が配信されています。スマホで右上のQRコードから、またはパソコンで「おうちで拍手を」と検索いただき、YouTubeでご覧いただけます。

- 国枝春恵 作曲
《花を》一尺八、打楽器、ピアノのための(2015)
- 国枝春恵 編曲
《あなたがたどこさ》尺八、打楽器、ピアノのための(2016)



左から、国枝春恵(ピアノ)、坂田誠山(尺八)、會田瑞樹(打楽器)

REPORT 「ケンゲキオンラインスクール 音楽を聴こう知ろう」が開催されました

新型コロナウイルス感染防止の観点から学校の音楽授業は歌うことや演奏することができません。そこで児童たちに良質な音楽を届けようという趣旨のもと、7月21、27、28日に熊本県立劇場のコンサートホールと熊本市内の小学校をオンラインでリアルタイムに結び、プロの演奏を解説付きで配信する「ケンゲキオンラインスクール 音楽を聴こう知ろう」が熊本県立劇場の主催、大学院教育学研究科と熊本市教育委員会の後援により開催されました。

本事業を企画したのは同研究科の瀧川淳准教授。限られた授業時間数の中、授業の一環として鑑賞できるような内容を監修し、司会進行を務めた3日間全7公演を、1～6年生のおよそ9,000人の児童が鑑賞しました。教室で鑑賞する児童たちは、2台のピアノやヴァイオリン、クラリネットとピアノによる三重奏、箏と尺八の二重奏、そして弦楽四重奏による様々な演奏に身体を揺らしたり、リズムを刻んだりしながら楽しんでいました。



太鼓を演奏する瀧川准教授(中央)



教室で公演を鑑賞する児童の様子

◎読者アンケートへご協力ください
熊本大学広報誌「熊大通信」では、皆さまからのご意見やご要望、掲載につながる情報提供をお待ちしております。
プレゼントご希望の方は、ハガキまたはメールにお名前・住所をご記入ください。
プレゼント回答期限 令和2年12月28日(月) 必着



アンケートには、携帯からご回答いただくこともできます。左記のQRコードからアクセスしてください。
※携帯電話等によってはアクセスできないこともあります。

ハガキ

下側の専用ハガキに必要記載事項をご記入の上、切手を貼らずに郵送してください。

メール

メールでも受付しております。専用ハガキと同じ必要記載事項を sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp までお気軽にお送りください。(書式は自由です。)

ご提供いただいた個人情報、プレゼント当選者への発送にのみ活用します。無断で、他の目的に使用することはありません。

「熊大通信」第78号アンケート

今後の本誌の参考とさせていただくため、以下の質問にお答えください。

1 今号の内容について

- 特集Ⅰ 学問の融合が生命現象の謎を解き明かす
生物学×化学
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】
- 研究室探訪 がんを克服する人を一人でも増やすために
大学院生命科学研究部 消化器外科学 馬場 秀夫 教授
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】
- 特集Ⅱ それでも、できることはある。
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと「主体的」に動いた熊大生
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】
- 卒業生ジャーナル
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】
- 地域と熊大
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】
- KUMADAI TOPICS
【 良い ・ まあまあ良い ・ ふつう ・ やや悪い ・ 悪い 】

2 今号の誌面構成について

- ページ数 【 多い ・ 適切 ・ 少ない 】
文字の大きさ 【 大きい ・ 適切 ・ 小さい 】
文章量 【 多い ・ 適切 ・ 少ない 】
写真の点数 【 多い ・ 適切 ・ 少ない 】

3 ご意見・ご感想

読まれて、どのような印象をお持ちですか。今後、誌面を通じてお知りになりたい「テーマ」や、「熊大通信」に対するご意見ご感想がございましたら、お知らせください。

--

ご協力ありがとうございました。

郵便はがき

8 6 0 - 8 7 9 0

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

熊本大学 総務部 総務課

広報戦略室

「熊大通信」編集委員会 行

料金受取人払郵便

熊本中央局
承認

2447

差出有効期間
令和4年3月
31日まで
(切手不要)



《ご職業》

学生 中学生 高校生 大学生 その他 ()

社会人 教員(中学・高校等) 公務員・団体職員 大学教職員

会社員 自営業 無職 その他 ()

《年齢》 ~10代 20~30代 40~50代 60代~

《今号の入手先》熊大の構内 ・ その他(場所:)

*プレゼントをご希望の方のみ、下記にご記入ください。

お名前	
ご住所	〒

熊本大学オリジナル

「アマビエクリアファイル(A5サイズ)」

「アマビエイラストケース」プレゼント

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様に

熊大通信の表紙絵を制作している松永拓己准教授による

アマビエのイラストが入ったクリアファイルとイラストケースを

セットでプレゼントします。



Presenti

商品の発送をもって発表と
代えさせていただきます。